

28名解雇者・12名清算の仲間を奪い取らせ！ 鉄道労連解体・一掃

3/25 16回定期総会 4月1日 新たな肉（ハ）

日刊 労働千葉

87. 3. 26 No. 2510

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六、（公衆）〇四七二二二七二〇七

強制配転・出向の組織破壊を許さな

委員会宣言

われわれは本日、千葉県教育会館において、第十六回定期委員会を開催し、国鉄分割・民営化絶対反対、十万人首切り粉砕をかかげ決起した第一波ストライキ以降のたたかいが切り拓いてきた勝利の地平に、確信を深めるとともに、「四月一日、国鉄分割・民営化移行」を出発点に、新たなたたかいへ決起していく決意をうち固めた。

われわれは、どんなに苦しくとも労働運動の原点を守り、原則的にたたかいぬく中から勝利したことを、いまこそしっかりと確認しようではないか。

不法・不当な差別・選別、レッドパージ攻撃が吹き荒れる今日、わが労働千葉が千葉局の運転職場における最大組合として敵に存在している事実は、三・一〇配属攻撃の下で「国労運転士はゼロ」となってしまう東京南局の実態をみると、職場を、仲間を、組織を守りぬくため、全組合員が、まさに満身創 となつて決起した二波のストライキ、七波の順法闘争をはじめとした労働千葉のたたかいの正義性はますます鮮明なものとなっている。われわれのたたかいは、政府・国鉄当局が分割・民営化にかけた最大のねらいである国鉄労働運動解体攻撃、すなわち「一企業一組合」をも大破産に追いこんできたのだ。

それゆえに、四月一日以降、資本と結託した「一企業一組合」攻撃が、強制配転や出向を軸とした凶暴な組織破壊攻撃としてかけられてくることは必至である。四月一日以降、新たな組織攻防戦に断固勝利するために、労働千葉のたたかいは意義を、今一度しっかりと確認しようではないか。

われわれは、この勝利が二十八名の解雇者、十二名の清算事業団へのパージをはじめとする重大な犠牲のもとに勝ちとられた現実をしっかりと見据えなければならぬ。

労働千葉の最先頭でたたかいぬいた仲間を、全員職場へ奪いかえすたたかいを断固としてやりぬかなければならない。

何よりも、政府・国鉄当局は「四月一日移行」にあたって、全員を一旦解雇―新会社採用という形で不法・不当にも労使交渉を一切排除し、労働条件の一挙的改悪を強行している。提案された新会社の労働条件は、血をながしながら勝ちとってきた諸権利や既得権をことごとく破壊・一掃するものであり、断じて容認することはできない。

しかも、労働強化と低賃金のもとで徹底した能力・成績主義の導入によって労働者を差別・分断し、資本に忠誠を誓う「御用組合」―鉄道労連を育成しようとしている。鉄道労連―産報化組合主導の下で、労働者の生活や権利は絶対に守れない。労働者が、資本や鉄道労連に付き従っているならば、それこそ無権利と、「赤字をださないことが命題」とされる新会社において、使い棄ての労働者として本当に殺されてしまうのだ。

国鉄職員が首つり

17日に辞令も 新会社に不安

盛岡

【盛岡】盛岡市緑が丘三ノ七、八 国鉄盛岡新幹線第一運転所検査長 伊藤謙司さん（五十九）が十八日に自宅裏の物置小屋で首をつって自殺していたことが十九日、分かった。盛岡東署の調べによると、伊藤さんは十八日は公休日で、午後三時半すぎ、外出先から帰宅した妻が伊藤さんの姿が見えないのに気づき、家の中を捜したところ、物置小屋の二階の階段付近で、荷づくり用の麻ロープで首をつっていた。死亡推定時刻は十八日午前十一時ごろとみられる。伊藤さんは四月から発足する東日本旅客鉄道会社盛岡支店に希望通りの採用が決まり、十七日に辞令を受けとったばかりだった。家族の話によると、これからの仕事は大変になると話し、新しい職場への不安をもちていたというが、遺書はなかった。

伊藤さんは三十年四月、国鉄に入り、釜石機関区を皮切りに盛岡機関区を経て、東北新幹線が開業した五十七年の四月から現在の職場に勤務していた。伊藤さんと親しい同僚は「新しい職場は現在と同じ部署。最近よく変わった様子はなく、突然の訃報（ふほう）に驚いている。温厚でまじめな人だったのに」と話している。

伊藤さんは労働盛岡地本（菊池善昭委員長、千六百四十人）の検査分科会副会長。菊池委員長は「組合員は新会社でもがんばろうと励まし合っていたのだが」と伊藤さんの突然の死にショックを受けている。

組合員を犠牲にする卑劣「鉄道労連」

われわれは、労働者の犠牲のもとに延命をはかり、「一企業一組合」の破産の危機に労働者の首切りを要求する鉄道労連を解体・一掃し、階級的団結と階級の実力で生活と権利、雇用と労働条件を守りぬかなければならない。

闘いはこれからだ。

労働千葉、労働総連合の強化・拡大をはかり、「三里塚を闘う労働運動」の路線的正義性を発揮することが今こそ求められている。あらゆる戦術を駆使してたたかいぬく決意をうち固めよう。右宣言する。

一九八七年三月二十五日
十六回定期委員会

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！